



NLP的に生きていく「ダンス de コーチング」

『それは... 奇跡! あなたに捧げる』

2008年5月のある日...

Jimmy の大切な、大切な クライアントから一通のメールが 朝方届いた...

『コーチ! もう ダンスできません... わたし 急性リンパ性白血病です!』

えー! だって、先週までダンスのレッスンに 元気に来ていたじゃない!

何度も、何度もメールを読み直したが... 「白血病」という文字は、間違い。

『天井に向かって... どうしてわたしが... 白血病! ただ泣くしかなかった...』

そして、その日から彼女との 半月に一回のメール交信が続いた!

「その後、体調はいかがですか?」

「面会許可が下りたら、連絡して!

日曜日にお見舞いに行くから! そう、サプライズ企画があるんだよ!

ダンスサークルの仲間に協力してもらい、彼女の復帰を祈願して、ひとり一羽 千羽鶴を折ってもらった。そして、深夜まで 妻と娘たちも快く支援してくれた。

「いつまでもみんなで待っているからね... この千羽鶴に祈りを込めて...」

面会許可が下りたある日曜日... 白衣とキャップをまとして、病室へ千羽鶴...

千羽には届かなかったけど... 奇跡を信じて...

みんなの心からの祈りを込めた千羽鶴を優しく手渡した。

長い髪をバツサリ切っていた彼女は、ただひたすら笑顔で話しかけてくれた...

10分程の面会時間... 涙を堪えるのが、精一杯

そして、病室を出た廊下で 今まで堪えていたものが、頬を伝わった...

「なぜ! 神はこんな試練を彼女に与えるのか!

どうして...」





竹下 次郎（ジミー）

『髪の毛が抜けました... 驚かないでね...』

「髪の毛が抜けてきたのは、薬が効いてきている証拠なんだよ！」

『良かった！ 薬が効いてるって事なんですね... うれしい！』

『コーチ！ 抗がん剤... 苦しい！ でも、でも もう一度踊りたい...』

「素晴らしい本を紹介するね！ 自分で奇跡を起こす方法 私の尊敬する井上裕之さんの本。きっと奇跡を起こせる勇気をもたらえるからね ... あなたも！」

『家族に買ってきてもらって、読みました！ 今は 私にも奇跡が起こせる気がしています！そして、それを信じます ... ありがとうございます！』

「そうだよ！ 奇跡は、自分で起こせるんだ！ だから、もう一度ドレスを着て、ダンスを踊ろうね！」

『ドナーが見つかって、私... 骨髄移植します。 奇跡を信じて！』

「必ず 奇跡を起こせるよ！ 自分を信じて！」

そして、2009年2月のある日 ...

『コーチ！ 私 明日退院することになりました！ まだ、踊ることは無理だけど...』

「すごい！ 奇跡を起こしたね！ 家族と一緒に過ごせるんだね。 おめでとう！」

梅雨も明け、あるダンス競技会で ジャッジを担当した。

自分の目を疑った... 彼女が競技フロアに立っていた。

間違いなく、彼女だ！

すごい！ 本当に奇跡を起こしたんだ...

おめでとう ... 本当におめでとう！

ジャッジペーパーに落ちた... 頬から流れた感動の雫が...

昨日彼女からメールをもらった ...

「コーチ！ 11月27日に 骨髄移植してから一年を迎えたの！ 家族みんなが新しい誕生日として、お祝いをしてくれた！ 生きていることの喜びに、そして幸せに 心から ありがとう！」

**「待っていてくれる人がいることで、どんな苦境からも立ち上がり、そして、なんとしても生きていこうという熱い想いが、奇跡を起こす！」**

**まさに、あなたの奇跡がみんなに勇気を与えてくれた。ありがとう！**

ジミーのブログより